

ACD2022に参加してきました

2022年8月19日～21日にパシフィコ横浜で開催された第8回アジア栄養士会議は、公衆栄養、臨床栄養、栄養士養成、災害支援など、多様なトピックについてアジア各国の現状や取り組みの発表がありました。コロナ禍での現地開催となった今回の国際会議は、会場でのランチョンセミナーや飲食を規制するなどの感染対策、一部海外からのオンライン発表、チャット



機能を駆使したポスター発表など、様々なアイデアが取り入れられた対面と非対面を共存させた新しい形のものでした。

私が拝聴した腸内細菌叢と栄養に関する講演では、腸内細菌の多様性により、実年齢ではなく生物学的年齢も長くなる（長生きする）ことや、プロテインだけを負荷しても筋肉量は増えにくいとの報告がありました。食物繊維など他の栄養素と一緒に摂取することが大切なのではないかとの考えであり、今後の栄養管理・指導においてヒントとなる学びとなりました。

ワークショップでは回復期リハビリテーション病棟での病棟管理栄養士の役割と取り組みについての発表を拝聴し、病棟での管理栄養士の多職種との関わり、患者の経過観察、栄養食事指導や食事対応など、患者のためにできることを日々考えて活動の幅を広げるなど、そこで働く管理栄養士の方々の熱意を感じることができ、日常を振り返る良い刺激になりました。

また今回来日が叶わなかった海外の参加者とは、ポスターを拝見した内容についてメール機能を使ってやり取りをすることで、がん患者の抱える栄養管理の問題点が各国共通であることを知ることができました。

近年、デジタル発表が主流となり、電子端末操作や発表データ作りなどには挑戦が必要ですが、紙媒体の印刷や持参が不要となりました。以前はかなりの時間をポスターの前で立ち続けることがありましたが、現在は、ポスターのオーラル発表が無かったり、拘束時間が短かったりと、その是非はさておき、全体を通しての時間的な負担は減っていると思います。翻訳ツールも優秀になっていますので、ポスター発表から始めるなど、挑戦してみたい方のハードルは下がっていると思います。新型コロナの時代を経て、ある意味、人と人とのコミュニケーションは容易に、そして広範囲に繋がりがやすくなっていることを感じることでできた学会参加となりました。

このような貴重な体験を得ることができましたことに、開催にあたって多大なご苦勞をいただいた日本栄養士会やアジア栄養士会議関係者の皆様に深く感謝いたします。

(文責 医療 花山佳子)